

滋賀県精神保健 福祉協会だより

第46号
SHIGA
精神保健福祉協会

2012.8.31

編集発行：滋賀県精神保健福祉協会

〒525- 草津市笠山八丁目4番25号

0072 滋賀県立精神医療センター気付

TEL/FAX 077(567) 5250

http://www.mental-shiga.com

E-mail smental@ex.biwa.ne.jp

こころの健康フェスタ2012

に参加して

東近江保健所
瀬戸昌子

「こころの健康フェスタ」が始まって以来、初めての大型ショッピングモールでの開催。大勢の人が行き交うにぎやかな場所でのようにフェスタが行われるのか？八月五日の日曜日、期待と不安を抱えてイオンモール草津のセントラルコートに向かいました。

大きく「こころの健康フェスタ」と書かれた受付テーブルの後ろにはすらりと椅子が並べられ、日本精神科看護技術協会滋賀県支部の活動紹介パネルの展示、アルコールパッチテストのコーナー、幻聴体験コーナーがあります。精神保健福祉協会のパンフレットを使っているこころの健康チェックや医師、保健師による相談コーナーもあります。エスカーレーターの両側には、滋賀県精神障害者家族会連合会の「菜々展」の作品が勢揃い。商品があふれるモールの一画で、当事者や家族の皆様の心のもった絵、書道、手芸品などの堂々とした展示です。これらの作品には、審査を経て知事賞はじめいろいろな賞が贈られます。

お昼頃から買い物客が徐々に増加。関係スタッフの熱意とカイツブリ（びわ湖放送のキャラクター）人気で、フェスタのパンフレットとプレゼントの「知ったかぶりカイツブリ」の自由帳や風船（どちらも子どもたちに大人気でした）を手にした大勢の親子が集まってきました。



楽々展



体験コーナー

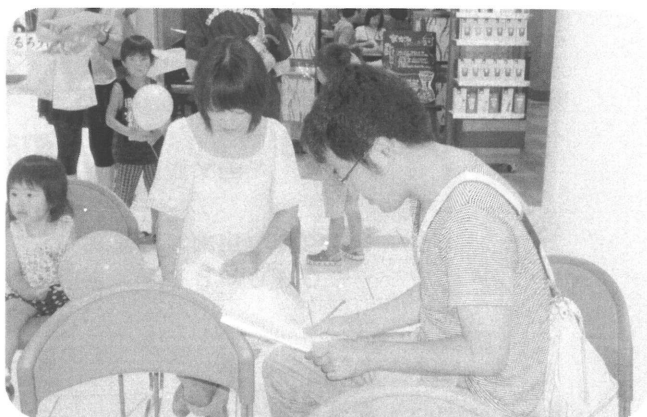


受付風景



楽々展

いよいよ一時半。山田尚登会長の挨拶でフェスタがスタートです。滋賀県知事の代理で滋賀県健康福祉部の苗村理事から、精神保健福祉事業功労者知事表彰が瀬田川病院の青木泰亮氏、八幡青樹会病院の山柘茂樹氏に授与され、続いて山田会長から滋賀県精神保健福祉協会表彰がセフィロト病院の横野文氏、水口病院の藤木弥生氏、水口病院の木村佳喜氏、辻メンタルクリニックの辻元宏氏に授与されました。二〇〇余りの椅子席は満席で、周囲に立っている方、エスカレーターや二階三階から見守る方もいて大盛況です。会場の皆さんと歌の練習をし、カイツブリ



メンタルヘルスチェックの様様

の着るみも到着してショーの準備が整い、二時から「知ったかぶりカイツブリ 着ぐるみライブショー」が始まりました。最初に山田会長が滋賀県精神保健福祉協会の説明をされ、「障害のあるなしに関わらず共に暮らしたい社会をめざしていこう」と来場者に呼びかけられました。司会のお姉さんもフェスタの趣旨を良く理解して進行してくださっていることが嬉しかったです。引き続きキャラクターとお姉さんたちの歌、踊り、クイズで会場は大いに盛り上がり、あっという間に時間が流れました。

午前午後を通し、参加者は、〇〇〇名を超えたようです。こんなにたくさんの方にフェスタを楽しんでもらえたのは、「ショッピングモール」と「人気キャラクターショー」という今までにない新しい試みの組み合わせがあったからだ！と改めて納得しました。学生、子育て世代、働く世代、シニア世代と、あらゆる世代が集まる大型ショッピングモールでの啓発はもったいもないなことができそうです。キャラクターの人気を借りての啓発や、テレビなどのマスコミを通じた啓発もできそうです。様々な刺激を受けて、フェスタの可能性や新しい啓発方法にも思いを馳せた一日でした。



表彰式



開会式



第16回 総会報告

平成24年6月7日（木）午後3時から、滋賀県立精神医療センター研修室において、第16回総会が開催されました。山田会長の挨拶に続き、議長に熊澤孝久氏（滋賀県断酒同友会）が選出されました。議事として、理事会報告、平成23年度事業報告・決算報告、平成24年度事業計画・予算について、続いて平成24年度の活動方針（案）について討議が行われ、すべて原案どおり承認されました。

平成24年度事業計画（年間開催予定）

1. 啓発・普及

○精神保健福祉啓発事業

・「つどい（フェスタ）」の開催 1回 ・一般科・精神科（G-P）連携促進事業 随時

○会報誌・パンフレット等の発行、ホームページの運営・管理

・啓発資材作成、配布 1～2回 ・会報誌の作成、配布 3回 ・情報提供 随時

2. 研修・調査研究

○研修会の開催

・こころの健康講座 1回 ・勉強会の開催（調査研究部会担当） 随時

・アンチプレジューディス（反偏見）に関する研修会 1回

3. 団体支援

○関係団体の支援、育成

・患者家族会、断酒会、ボランティア団体等の活動支援 随時

会員の皆様のご意見、情報、ご質問など、事務局（TEL/FAX 077-567-5250
Email：smental@ex.biwa.ne.jp）までお寄せください。（報告：事務局 塚田結子）

ゲール訪問者を追い求める旅(その2)

橋本 明 (愛知県立大学教育福祉学部教授)

突然ですが、今回はインドのお話です。ベルギーのゲールとインドとの間に何の関係があるのか?そう思われるでしょうね。まずはお聞きましょう。

そもそもの始まりは、一通のメールでした。かつてインドのある精神病院で院長をしていたイギリス人の精神科医オーウェン・パークレー=ヒル(1879-1944)(→図1参照)の消息が知りたくて、ジャルカンド州のランチ(Ranchi)にある国立精神医学中央研究所(CIP)にメールを送ったのが2003年4月10日。パークレー=ヒルが勤務していた当時(1919年から1934年まで)は、「ヨーロッパ精神病院(European Mental Hospital)」などと呼ばれていましたが、現在はCIPで通っています。メールを送ってからから1ヶ月以上が過ぎて、もう返事はないと確信していた矢先、CIPの所長で精神科医のニザミさんから丁寧なメールが返ってきました。

いったい、どこからパークレー=ヒルを知ったかと言えば、前回の第7話でもとりあげた19世紀後半から20世紀前半にかけて、ベルギーの国内外からゲールを訪問した人の名簿からです。アジアからの訪問者は相対的に少なく、国別に見れば8人の訪問が記録されている日本からの見学者が最多です。インドからの訪問者として、少なくとも4人を確認できます。このうちの1人がパークレー=ヒルなのです。彼は、ラグビー校そしてオックスフォード大学で学んだイギリス人で、職を求めてイギリス統治下のインドにやってきた男です。訪問者名簿によれば1925年(月日は不明)にゲールを訪れています。私の関心は、彼がゲールを訪れた目的は何か、インドでゲール・システム、つまり精神科の家庭的看護の実践はあったのか、ということでした。パークレー=ヒル以外のインドからの見学者3人は、どうやら生粋のインド人らしく、資料収集の難易度は相当高そうでした。

さて、CIPの所長ニザミさんのメールによって、パークレー=ヒルはインド人と結婚していること、「ヨーロッパ精神病院」を退職した後はランチにナーシング・ホーム(精神病患者の長期療養施設と思われる)を設立したこと、ランチで亡くなっていること、『あまりにも人間的な(All too human)』という自叙伝を残していること、などが判明しました。彼の自叙伝は重要な資料と考えられるので、再びメールでニザミさん尋ねてみたところ、CIPの図書室にもないということでした(あとで勤務先大学の図書館を通じて、ロンドンの大英図書館から取り寄せることができました)。もちろん本格的に調査するならば、現地に行くのがよかるうとは思いましたが、正直なところインドまで行く勇気が湧いてきませんでした。ところが、2006年11月にインドのニューデリーで医学史関係の国際学会が開かれ、私はそこで研究発表をすることになったのです。ニューデリーまで行って、ジャルカンド州のランチまで行かない手はありません。こうしてパークレー=ヒルに関する現地調査が実現しました。

ニューデリーでの学会を終え、デリーの空港から国内線に乗り、およそ1時間半でインド東部のランチ空港へ到着。空港では国立精神医学中央研究所(CIP)が手配してくれた迎いの自動車が待っていました。そこからCIPがあるランチ郊外のカンケという地区へは、車で1時間弱。途中の風景はデリーとはかなり異なり、貧しさを絵に描いたよ

うな町並みが延々と続いています。運転手はCIPまでの道を、「どけ、どけ」と言わんばかりに、クラクションを鳴らし続けながら、人や牛、そして別の車のすぐ脇を猛スピードで走り抜けていきます。危険極まりない、手に汗握るドライブの末に、CIPのゲストハウスに到着しました。ここがランチでの宿です(→図2参照)。

翌日の午前9時過ぎに、きのう空港へ迎えにきていたのと同じ運転手付きの車でCIPへ。歩いても数分の距離なのですが、車に乗らないとダメらしいのです。ランチを去る時になってはじめてわかったのですが、私はこの運転手(と車)を丸々4日間雇ったことになっていたのです。CIPの前身は、1918年にイギリス人によって設立された精神病院です。イギリス統治下のインドでは、ヨーロッパ人(おもにイギリ

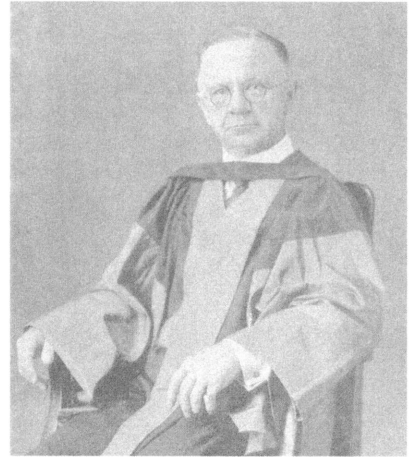


図1 パークレー=ヒル
(Owen A.R. Berkeley-Hill, 1879-1944)
出典: Owen A.R. Berkeley-Hill: All Too Human: An Unconventional Autobiography. Peter Davies. London, 1939



図2 ゲストハウスの食事
毎食カレーがでてくる。カレー好きの私としては、とてもうれしい。著者撮影。



図3 国立精神医学中央研究所
(CIP, Central Institute of Psychiatry) の正門
著者撮影。

デイビスの子孫が現在も精神病院をやっており、パークレー=ヒル情報を求めて訪問したらいいのではないかと、という4つくらいの提案があり、ニザミさんがすべて段取りをつけてくれました。

パークレー=ヒルが住んでいたという家は、鉄道沿線地区にありました。現在はキリスト教系の学校の建物があり、昔の家はほとんど壊されていました。この学校にはパークレー=ヒルを知る人もいないようでした。さらに車で市街地の共同墓地へ向かいました。案内人はやや迷いながらも、パークレー=ヒルの墓を探し当てました。そこは、イギリス人が埋葬されている一角で、墓参りに来る人もいないのか、かなり荒れ果てています。私は墓石を覆う草をどけて、彼の墓の写真は何枚か撮りました。異国で亡くなった者の哀れな末路と言ったら、ランチの人たちに失礼でしょうか。

次の目的地は、「デイビス神経精神医学研究所」です。今度は、一転して田舎道をしばらく走ります。はるかかなたに見えていた岩山が、間近に迫ってきました。舗装されていない狭い道に入っていくと、その病院はありました(→図4参照)。オフィスで待っていると、設立者ロバート・デイビス氏の娘で、精神科医のエリザベス・デイビスさんが現れました。彼女の母、つまりロバート氏の妻は、1944年にランチの精神病院でインド人として最初に看護婦となった人で、ロンドンにも留学し、とても活動的な人として地元では有名でした。パークレー=ヒルとも親交がありましたが、数年ほどまえに亡くなったそうです。パークレー=ヒルの人となり伝える話は、すべてエリザベスさんの母親から出ているようです。

このように、現地調査ではパークレー=ヒルの足跡はある程度たどれたのですが、ランチにはゲールとのつながりを示すものはありませんでした。ゲールを訪れたのと同じ1925年、彼はインドの英字医学雑誌(The Indian Medical Gazette)にゲールの家庭的看護を紹介しています。そこで「家庭的看護はアングロ・インド人およびインド人にとって導入可能かつ不可避の展開である」と述べていますが、同時に「インドでゲール・システムの導入が妨げられているのは、それがインド人の生活様式とは合わないからだ」とも書いています。結局、ヨーロッパ的な意味での家庭的看護がランチで実践された形跡はないようです。

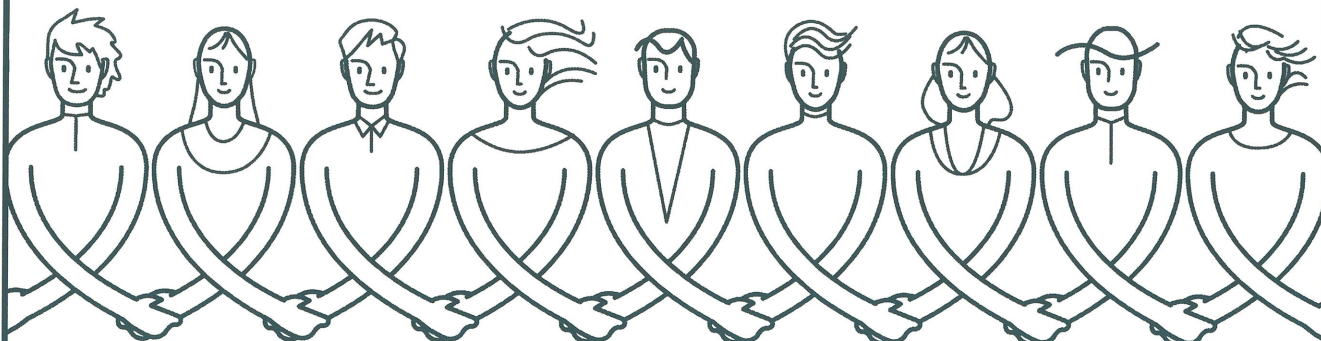
私は最初のインド訪問ですっかりこの国に魅了されてしまいました。パークレー=ヒルのことはともかく、とくにランチで見たインドの農村風景が頭から離れません。それで、2008年3月にふたたびインドを訪れたのです。もっと詳しくインドの精神医療の現状を知りたいという思いもありました。うれしいことに、前回のランチ訪問で知り合うことができたエリザベス・デイビスさんの病院の敷地内にあるお宅に、しばらく泊めてもらうことになったのです。この時の訪問では、自宅で暮らす精神障害者の様子や、民間治療の実態などにも触れることができ、これまた極めて印象深いものでしたが、これ以上の詳細は省略します。ともかく、インドの精神医療の現状は、専門医と病床数の圧倒的な不足と、それを補う家族ケアと民間治療への依存とまとめられるかもしれません。しかし、かつて日本がたどった過剰な施設収容化がこれから進むとは到底考えられません。インドの社会的・文化的な背景に根ざした独自の地域精神医療が展開されていくに違いないだろう、というのがその時に私が感じた印象でした。(第9話につづく)



図4 デイビス神経精神医学研究所
(Davis Institute of Neuropsychiatry)
名前は「研究所」だが入院ベッドをもつ精神科病院。著者撮影。

Lilly

ひとりひとりの輝くあしたへ。



いっしょに、道を広げましょう。これまでも、これからも。

イーライリリーは精神科医療の向上と、
精神障害に対する「偏見」や「差別」を
なくすための活動を支援してゆきます。

www.schizophrenia.co.jp

(統合失調症に関する一般の方向けサイト)

リリーの情報はインターネットでご覧になれます。<http://www.lilly.co.jp>

日本イーライリリー株式会社
〒651-0086 神戸市中央区磯上通7-1-5

「認知症」のこと、「歳のせい」にしているませんか？

認知症は早期に治療することで症状を遅らせたり、改善したりすることができます。

近江温泉病院は、認知症に伴うさまざまな症状に対して、専門的な治療を行う

「認知症病棟」を有しております。

認知症の診断と治療を通じて、患者さんご家族の地域での暮らしを支えます。

ご家族の変化に気づいたら、お早めにご相談下さい。

 医療法人 恒仁会 近江温泉病院

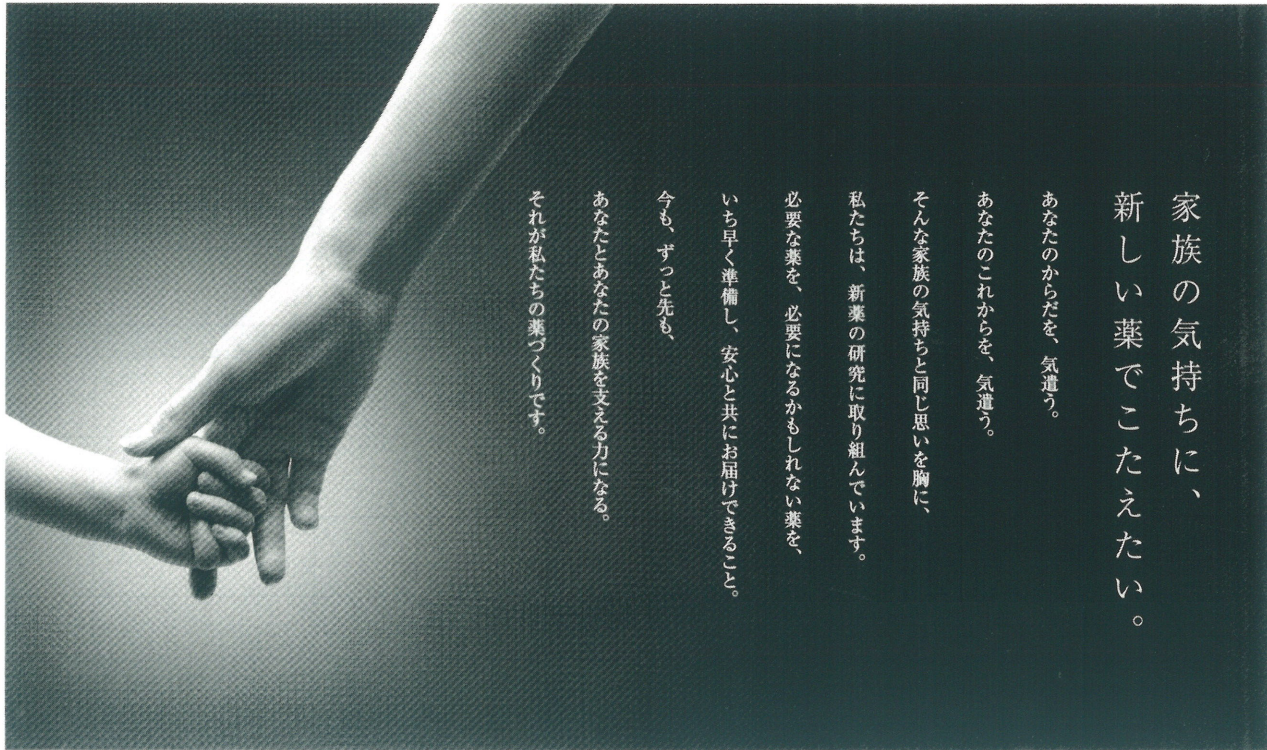
滋賀県東近江市北坂町966

TEL 0749-46-1125

FAX 0749-46-0265

ホームページ <http://www.oumi-hp.or.jp>





家族の気持ちに、
新しい薬でこたえたい。

あなたのからだを、気遣う。

あなたのこれからを、気遣う。

そんな家族の気持ちと同じ思いを胸に、

私たちは、新薬の研究に取り組んでいます。

必要な薬を、必要になるかもしれない薬を、

いち早く準備し、安心と共にお届けできること。

今も、ずっと先も、

あなたとあなたの家族を支える力になる。

それが私たちの薬づくりです。



大日本住友製薬

www.ds-pharma.co.jp

大塚製薬株式会社
徳島研究所(Hi-zタワー)
岡本太郎画伯
「いのち踊る」瀬戸内寂庵命名



Otsuka-people creating new products
for better health worldwide



Otsuka

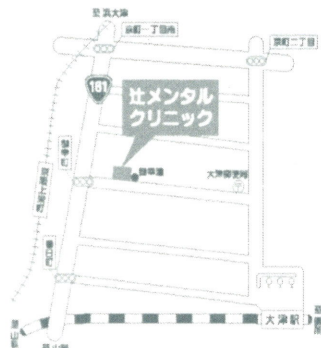
大塚製薬株式会社

東京都千代田区神田司町2-9

辻メンタルクリニック

24年5月に開院しました。不眠症、うつ、パニック障害、社会不安障害、ストレス障害、職場のメンタルヘルス、女性のメンタルヘルス、認知症対策、お気軽にご相談下さい。診療は完全予約制となっております。まずは、お電話にてご予約ください。

JR大津駅より徒歩7分、京阪電車上栄町駅より徒歩5分、無料駐車場2台。



院長 辻 元宏 (つじ もとひろ)

〒520-0057 大津市御幸町2-2 電話 077-510-0567

辻メンタルクリニックでは、「保健・福祉を統合した科学的な医療と文化に根ざした患者本位の社会復帰」を、治療の基本として考えて、治療を行っていきます。

当クリニックでは、医師が一方的に治療を進めていくことはありません。

患者さんは「一人の人間」として、医師は患者さんの問題解決を援助するスタッフとして、患者さんが求める自己実現のための、説明や話し合いを重ねてまいります。

ご来院を心よりお待ちしております。



GlaxoSmithKline

生きる喜びを、もっと
Do more, feel better, live longer

Do more,
feel better,
live longer

グラクソ・スミスクラインは、研究に基盤を置く世界をリードする製薬企業です。中枢神経領域、呼吸器領域、ウイルス感染症、がん治療領域などの医療用医薬品やワクチン、「コンタック」「アクアフレッシュ」「ポリデント」などのコンシューマーヘルスケア製品を通じて、人々がより充実して心身ともに健康で長生きできるよう、生活の質の向上に全力を尽くすことを企業使命としています。

グラクソ・スミスクライン株式会社

〒151-8566 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-6-15 GSKビル
<http://glaxosmithkline.co.jp>

第16回総会講演会

「臨床心理士の仕事について」まとめ



平成24年6月7日、滋賀県精神保健福祉協会第16回総会に続き、滋賀県臨床心理士会の湯澤茂子先生による特別講演が行われました。講演は、「臨床心理士の仕事について」と題し、湖南病院で臨床心理士として活躍されている湯澤先生から、専門的技術や活動分野などについてお話いただきました。以下は講演内容の要約です。

昨今の複雑化する社会背景の中で、心理的課題を抱え専門職の援助を求める人が増えています。臨床心理学に基づいた知識と技術で援助を行う場面で、心理カウンセラー、心理士、心理相談員、心理判定員など様々な名称で専門職の方々が活躍して

おられます。その中で、臨床心理士は日本臨床心理士資格認定協会の認定を受けた心理専門職ですが、今日は、広く心理職としての仕事、というスタンスでお話ししていこうと思います。

まず、援助の方法ですが、専門的技術はおおまかに次のように分類されています。

1. 心理アセスメント

話を聞いたり、時には心理テストを使って問題点を探っていきます。

2. 心理面接

心理士と相談することによって、問題や解決策を見出していきます。

3. 臨床心理学的地域援助

当事者だけでなく、とりまく環境全体を合わせて考えていくという方法です。

4. 研究活動

次に心理面接の技法ですが、箱庭療法や、最近よく取り上げられている認知行動療法、デイケアなどで行われている集団療法などがあります。また、一般によく使われている心理カウンセリング、子どもの場合は遊びの場面を利用しながらセラピーを進めていく療法もあります。

臨床心理士の働く場は多方面にわたっています。医療・保健の領域では、精神神経科・心療内科・小児科などで心理相談に応じています。また、HIV感染者・がん患者の支援、緩和ケア、慢性疾患、高齢者医療の場で、患者本人や家族の心理相談、精神保健福祉センターや保健センターでは、引きこもりやアルコール・薬物依存症の家族相談、思春期相談などを行っています。

教育の領域では、学校や教育センターで不登校や集団行動に問題のある生徒や保護者の心理相談を行っています。

福祉の領域では、発達相談や子育て、虐待やDV被害を克服するための相談、障害をもった子どもや大人の療育や支援にもあたっています。

司法・法務・警察の領域では、家庭裁判所で少年事件などに調査官として関わる他、鑑別所では少年の特性を踏まえた処遇を検討したり、受刑者にカウンセリングや集団療法を行っています。警察では、少年非行に関する相談や犯罪被害者への支援も行っています。

残念ながら滋賀県にはありませんが、大学・研究所では、臨床心理学の研究や心理職の養成を行う他、臨床心理センターを設置して、学生や地域住民の心理相談に応じています。

産業・労働は、職場のメンタルヘルスにかかわる領域で、臨床心理士もメンタルヘルス専門家として協力しています。

滋賀県臨床心理士会は、当初、現場の心理職の人たちが集まって情報交換していたのが、次第に心理士が増加し、会員の資質向上やネットワークづくり、支援事業への参画を目指して1993年に設立されました。現在は会員数が285名になっています。最近の活動としては、東日本大震災の被害者支援、自殺対策として「夜間休日 こころのほっと相談会」や「こころの健康電話相談」を行いました。相談会では、病院にかかっている方や主婦の相談が増えているのが特徴的です。

また、うつ病・児童虐待・発達障害や災害時の心理支援など、様々なテーマで研修会を開き、心理専門職としての研鑽に努めています。

講演の最後に湯澤先生は、「領域を超えてネットワークが広がり、関連する他の職種の方々とも協力してよいチームを形成することによって、多様化するニーズに応えていきたい」と締めくくられました。

(滋賀県精神保健福祉協会事務局 塚田結子)

こころの会 例会

日 時…平成24年10月4日(日) 13:00~15:00
 場 所…県立男女共同参画センター研修室B (JR近江八幡駅南口 徒歩10分)
 内 容…現在悩んでいること、薬のこと、病気のこと、等
 申込み…「こころの会」蒲生郡日野町木津192(事務局代表 吉澤康雄)
 TEL/FAX 0748-52-2918 (この会は患者会です)

日本笑い学会・笑ってメンタルヘルス滋賀支部 第11回 総会と講演会

日 時…平成24年10月6日(土) 14:30~17:00
 場 所…地域生活支援センターまな 2階
 講 演…笑いは百薬の長
 講 師…熊谷富夫氏(演芸プロデューサー、日本笑い学会副会長)
 パフォーマンス…温才その他
 会 費…300円(会員は無料)
 問合せ…地域生活支援センターまな TEL:0749-21-2192

あすばる甲賀Xのぞみ会X甲賀シネマパーティーコラボ企画 第15回 公開精保健福祉講座

日 時…平成24年10月7日(日) 13:00開場
 13:30~ 映画上映「人生、ここにあり!」
 15:30~17:00 大熊一夫氏講演会
 場 所…甲賀市碧水ホール(近江鉄道 水口城南駅前)
 申込み…甲賀・湖南人権センター(あすばる甲賀)
 TEL 0748-65-4020 FAX 0748-65-4021

伝 言 板

平成24年度 滋賀県精神保健福祉協会 調査研究部会事業 「就労と結婚を語ろう!!」

日 時…平成24年10月13日(土) 13:30~15:30(受付13:00~)
 場 所…障害者支援センターそら (JR長浜駅からバス約15分)
 内 容…当事者2名からの体験発表(発表者未定)
 コーヒーブレイク・フリートーク
 小グループ討議&質疑応答
 問合せ…滋賀県精神保健福祉協会 事務局
 (TEL 077-567-5250)

参加
無料

滋賀県精神神経科診療所協会講演会

日 時…平成24年11月24日(土) 18:00~20:30
 場 所…草津市立まちづくりセンター
 講 演…大人の発達障害の臨床
 講 師…岡田俊先生(名古屋大学医学部付属病院親と子どもの心療科)
 会 費…1,000円
 主 催…滋賀県精神神経科診療所協会
 問合せ…南彦根クリニック TEL:0749-24-7808

平成24年度 滋賀県精神保健福祉協会表彰受賞者

●お名前●	●所 属●	●職 名●
横野 文 氏	セフィロト病院	医師
藤木 弥生 氏	水口病院	准看護師
木村 佳喜 氏	水口病院	看護師
辻 元宏 氏	辻メンタルクリニック	医師(院長)

上記の皆様は、平成24年8月5日にイオンモール草津で開催された「こころの健康フェスタ2012」にて表彰されました。おめでとうございます。

編集後記

◆ロンドンオリンピックでは夜遅くまでの観戦が続いて眠い日が続いたのではないのでしょうか。日本の金メダルは7個と淋しかったのですが、メダル数は37個で過去最高だそうです。とりわけなでしこジャパンをはじめとした団体競技で優秀な成績をあげていたのが印象的でした。チームワークが良かったということで、日本的と言えるのかも知れません。

翻って日ごろの臨床に目を転じてみると、依然として医師の働きに依存した診療報酬体系が続いているため、日本的なチームワークの力が発揮しにくいのが現状です。

◆大津のいじめ自殺事件が連日報道され、私たちの県都が一躍全国区のスポットライトを浴びています。一人の生徒の死に対して、学校や教育委員会の対応が、事態の隠蔽の方向に向いているとの印象を与えてしまっており、不信感を拭ききれないでいます。既に刑事事件として取り上げられていますので、軽々に言うことはできませんが、この場合はチームワークが組織防衛という方向に作用したのではないかと考えられます。また第三者機関を構成する場合など、身内での対応をこえて関係機関を交えてチームワークを創り出していくためには、守秘義務の取り扱いには厳重な配慮が必要です。チームワークは一朝一夕に成り立つものではないので、普段からのトレーニングが必要でしょう。

◆H19年6月に策定された自殺総合対策大綱が全体的に見直され、8/28に閣議決定されました。「誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指して」という副題が付けられています。H10年以降年間自殺者数が3万人を超えている状況は続いている状況はありますが、自殺死亡率をH17年度に比べてH26年までに20%減らす目標を立てています。これまでの取り組みの結果、中高年齢、高齢者層向けの対策が一定の成果を上げている一方、若年層では自殺死亡率が高まり、また、学生・生徒の自殺者数が増加傾向にあるなど、新たな課題も表れ始めているようです。そのような中で、児童生徒の自殺発生の実態把握、いじめ問題への対処などが書き加えられています。

◆8/3には障害者雇用に関する検討会報告書がまとめられました。ハローワークにおける精神障害者の新規求職申込件数は平成18年度18,918件から平成23年度48,777件と2.6倍増加。障害者全体の新規求職申込件数に占める割合は、18.3%から32.9%と増加。また、就職件数については、平成18年度6,739件から平成23年度18,845件と2.8倍増加。障害者全体の就職件数に占める割合は、15.3%から31.7%と増加、という結果が出ています。H18年度に精神障害者も障害者雇用率に算定された結果、精神障害者の雇用は着実に増えています。今回の報告書では精神障害者雇用の義務化は必要としながら、具体的な期日については明確になっていません。今後さらにいっそう精神障害者の雇用環境の改善や定着支援を進めていく必要があると思います。

(滋賀県精神神経科診療所協会 上ノ山)

会員数

平成24年8月31日現在

一般会員	個人会員	130名
	団体会員	35団体
賛助会員	個人会員	9名
	団体会員	7団体
サポート会員		4団体